

シンポジウムS2-2 スポーツ領域における高気圧酸素療法の実際

増島 篤 山口信彦 梅木秀一

東芝病院高気圧酸素治療室

【目的】近年、スポーツ外傷・障害に対する高気圧酸素治療（以下HBO）が注目されている。スポーツ外傷・障害に対するHBOは保険適応外であるが、さまざまな効果が期待できる。当院では2005年12月より最多で8人が同時に治療可能な多人数用装置(第2種装置)を導入し、スポーツ外傷・障害に対し、積極的に治療を行ってきた。今回はこれまでの治療経験に基づき、スポーツ外傷・障害に対するHBOの対象疾患、運用方法などについて報告する。

【対象および方法】対象は2006年より2010年9月までの4年9ヶ月間で治療を行ったスポーツ選手1,422症例である。これらの症例に基づき、スポーツ種目、対象疾患、運用方法について検討した。

【結果および考察】スポーツ種目ではラグビー(794症例)が最も多く、以下、野球(224症例)、バスケットボール(129症例)の順であった。対象疾患は急性外

傷が966件(80%)、慢性障害239件(20%)であり、急性外傷では、急性関節外傷が322件(49%)、急性筋外傷が322件(33%)、骨折88件(9%)、脱臼52件(5%)、急性脊椎外傷26件(3%)の順であった(図1)。慢性障害では、腰椎疾患47件(20%)、関節痛46件(19%)、頸椎疾患39件(16%)、筋痛39件(16%)などさまざまな疾患に対応した(図2)。運用方法はそれぞれの疾患ごとに試行を重ね、治療効果を判定しつつ行った。特に東芝強化スポーツチーム(ラグビー、野球、バスケットボール)に対しては、チームの試合スケジュールにあわせたバックアップ体制をとり、大きな効果をあげることができた。急性スポーツ外傷に対するHBOの応用により、多くの症例において治療期間の短縮、早期復帰が可能となった。今後さらに症例を重ね、疾患ごとの詳細なプロトコルの作成をすすめていきたい。

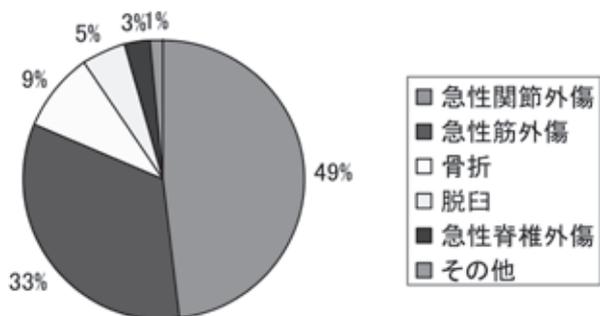


図1 急性外傷の種類

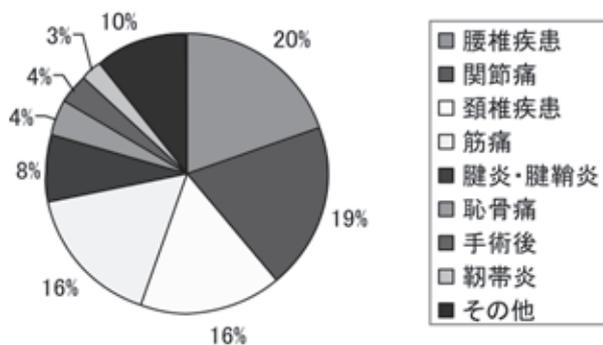


図2 慢性障害の種類